

議員提出第二十四号議案

台湾の国際民間航空機関（ICAO）への加盟支持を求める意見書

本県と台湾台中市は昨年十一月、訪問交流や観光情報の発信強化などを柱とする観光友好交流連携協定を結び、昨年引き続き、本年九月十五日から台湾台中市と大分空港を結ぶ航空定期チャーター便の運航が始まった。

それにあわせて、県内の経済、工業、農林水産、観光各関係団体の関係者で構成し、本県知事を団長とする訪問団が、九月八日より台湾で、県産品の売り込みや県観光をPRする台湾プロモーションを実施したところである。

今回、定期チャーター便の運航開始を契機に、経済、教育、文化を含め幅広い分野に相互交流を広げる友好交流に関する覚書を調印したことから、さらに今後の交流促進に県民から大きな期待が寄せられている。

台湾からの訪日観光客は、年間約三六八万人に達している。本県の観光客も年間約七万四千人、また、青少年教育旅行も大分高校をはじめ、多くの高校が実施しており、今後もかなりの実績が見込まれる。

そうした中、台湾政府は、航空機の運航・管制の国際基準の情報確保及びグローバルな運航の安全に寄与するために、国際民間航空機関（ICAO）への加盟を求めている。

台湾は、これまでICAOに参加できず、運航・管制の国際基準などの情報について他国を通じて入手している。このため、情報量が不十分、台湾上空への基準反映に時間差が生じるなどの課題があると聞いている。台湾には、約六十社の航空会社があり、当該機関の開催する総会への参加のみならず、ICAOへの加盟は、グローバルな運航の安全に寄与することとなる。

よって、国会及び政府におかれては、台湾からの訪問者及びわが国から台湾へ訪問する者の安全確保のためにも、日本と強い絆で結ばれている台湾が、ICAOに加盟することを支持し、そのために必要な措置を講じられるよう強く要望する。

右、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

平成二十八年九月二十七日

大分県議会議長 田 中 利 明

衆議院議長 大島理森殿  
参議院議長 伊達忠一殿  
内閣総理大臣 安倍晋三殿  
国土交通大臣 石井啓一殿  
外務大臣 岸田文雄殿